

学校コード F105110101051
注3

設置年度 令和 4年度
計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

共同設置（事前相談）

注2
秋田大学 大学院理工学研究科博士前期課程 共同サステナブル工学専攻

秋田県立大学 大学院システム科学技術研究科博士前期課程 共同サステナブル工学専攻

【共同設置】設置に係る設置計画履行状況報告書
（改正前大学設置基準適用）

秋田大学： 国立大学法人秋田大学
秋田県立大学： 公立大学法人秋田県立大学
令和5年5月1日現在

秋田大学：作成担当者	
担当部局（課）名	理工学研究科
職名・氏名	ソウカツ シュサ ササキ ショウヘイ 総括 主査・佐々木 周平
電話番号 （夜間）	018-889-2314（内線：2314） 018-889-2314（内線：2314）
e-mail	koso@jimu.akita-u.ac.jp
秋田県立大学：作成担当者	
担当部局（課）名	本荘キャンパス教務チーム
職名・氏名	チームリーダー・タムラ マコト 田村 誠
電話番号 （夜間）	0184-27-2027（内線：2027） 0184-27-2027（内線：2027）
e-mail	tamura@akita-pu.ac.jp

- （注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例） 〇〇大学 △△学部 □□学科
（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	17
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	34

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者、大学名

国立大学法人秋田大学：秋田大学
公立大学法人秋田県立大学：秋田県立大学

(2) 調査対象大学等の位置 (秋田大学)

〒010-8502

秋田県秋田市手形学園町1番1号

(秋田県立大学)

本荘キャンパス 〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷海老ノ口84番4号

(秋田キャンパス 〒010-0195

秋田県秋田市下新城下野字街道端西241番438)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

大学名	職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
秋田大学	理 事 長	該当なし		
	学 長	(ヤマモト フミオ) 山本 文雄 (平成28年4月)		
	研究科長	(ジケイ ミットシ) 寺境 光俊 (令和4年4月)		
	専攻長等	(タジマ カツブミ) 田島 克文 (令和4年4月)		
秋田県立大学	理 事 長	(コバヤシ ジュンイチ) 小林 淳一 (平成29年4月)	(フクダ ヒロオ) 福田 裕穂 (令和5年4月)	前任者の任期満了による変更。令和5年4月1日(5)
	学 長	(コバヤシ ジュンイチ) 小林 淳一 (平成29年4月)	(フクダ ヒロオ) 福田 裕穂 (令和5年4月)	前任者の任期満了による変更。令和5年4月1日(5)
	研究科長	(ミズノ マモル) 水野 衛 (令和2年4月)		
	専攻長等	(スギモト マサヤ) 杉本 尚哉 (令和4年4月)	(ビトウ テルオ) 尾藤 輝夫 (令和5年4月)	前任者の任期満了による変更。令和5年4月1日(5)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称，定員，入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの5年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5)－① 調査対象学部等の名称等

大学名	調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停止について	備 考
			修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
秋田大学	大学院理工学研究科博士前期課程 共同サステナブル工学専攻 修士（工学）	工学関係	2 年	18 人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	36 人	－	
秋田県立大学	大学院理工学研究科博士前期課程 共同サステナブル工学専攻 修士（工学）	工学関係	2 年	8 人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	16 人	－	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「－」を選択。）

(5)－② 調査対象学部等の入学者の状況

大学名	対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
		一人	一人	一人	一人	一人	一人	18人	若干名	18人	若干名					
秋田大学	A 入学定員	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [若干名]	(－) [若干名]	(－) [若干名]	(－) [若干名]	1.49倍	一倍	1.55倍	一倍	
	志願者数	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	34 [4]	3 [2]	31 [4]	－ [－]					
	受験者数	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	34 [4]	3 [2]	30 [4]	－ [－]					
	合格者数	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	30 [3]	3 [2]	25 [4]	－ [－]					
	B 入学者数	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	29 [3]	2 [2]	23 [4]	－ [－]					
	入学定員超過率 B／A							1.72		1.27						
秋田県立大学	A 入学定員	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	8人 8 [－]	8人 8 [－]	8人 8 [－]	8人 8 [－]	0.93倍	一倍	0.93倍	一倍	
	志願者数	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	10 [－]	(－) [－]	8 [－]	(－) [－]					
	受験者数	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	10 [－]	(－) [－]	8 [－]	(－) [－]					
	合格者数	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	9 [－]	(－) [－]	6 [－]	(－) [－]					
	B 入学者数	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	(－) [－]	9 [－]	(－) [－]	6 [－]	(－) [－]					
	入学定員超過率 B／A							1.12		0.75						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「－」を記入してください。
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
- なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。

計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。

- ・ 「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。

なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「－」としてください。

- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。

算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。

- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。

なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。

(５)－③ 調査対象学部等の在学者の状況

大学名	対象年度 学 年	令和元年度		令和２年度		令和３年度		令和４年度		令和５年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
秋田大学	１年次	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	32 [3] (－)	2 [2] (－)	23 [4]	2 [2]	R4. 4付転専攻3名 ※R5その他の学期欄の１年次２名はR4その他の学期欄の１年次２名と同じ者 次年度調査時は進級するため２年次に表記予定。
	２年次			[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	31 [3] (－)	[－] (－)	
	３年次			[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)			
	４年次			[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)			
	計			[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[5] (－)	56 [9] (－)				
秋田県立大学	１年次	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	9 [－] (－)	－ [－] (－)	6 [－] (－)	－ [－] (－)	
	２年次			[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	9 [－] (－)	－ [－] (－)	
	３年次			[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)			
	４年次			[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)			
	計			[－] (－)	[－] (－)	[－] (－)	[9] (－)	15 [－] (－)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

大学名	区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由
				入学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数	
秋田大学	令和元年度	人	人	令和元年度	人	人	
	令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
				令和2年度	人	人	
	令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
				令和2年度	人	人	
				令和3年度	人	人	
	令和4年度	32 人	1 人	令和元年度	人	人	
				令和2年度	人	人	
				令和3年度	人	人	
				令和4年度	1 人	0 人	就職(1人)
	令和5年度	56 人	0 人	令和元年度	人	人	
				令和2年度	人	人	
				令和3年度	人	人	
				令和4年度	人	人	
				令和5年度	人	人	
	合 計		1 人		1 人	0 人	
秋田県立大学	令和元年度	人	人	令和元年度	人	人	
	令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
				令和2年度	人	人	
	令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
				令和2年度	人	人	
				令和3年度	人	人	
	令和4年度	9 人	0 人	令和元年度	人	人	
				令和2年度	人	人	
				令和3年度	人	人	
				令和4年度	人	人	
	令和5年度	6 人	0 人	令和元年度	人	人	
				令和2年度	人	人	
				令和3年度	人	人	
				令和4年度	人	人	
				令和5年度	人	人	
	合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。（在学者数から退学者数を減らす必要はありません。）
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 （記入項目例）・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

<秋田大学>

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{32} = \boxed{3.12} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{56} = \boxed{0} \%$$

<秋田県立大学>

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	構 成 大 学	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共 通 科 目	(共通科目A) ＜外国語等科目＞											
	Presentation Method	1③	秋田大学		1							1
	理工学英語	1①	秋田大学		1							1
	Talking about Science in English	1②	秋田大学		1							1
	Current Topics in Science and Engineering	1③	秋田大学		1							1
	実践英語A	1前	秋田県立大学		2							1
	英語プレゼンテーションA	1後	秋田県立大学		2							1
	(共通科目B) ＜倫理等科目＞											
	科学技術者倫理特論	1②	秋田大学		1							1
	科学技術と倫理	1・2前	秋田県立大学		2							1
	工学的失敗論A	1後	秋田県立大学		2							3
	(共通科目B) インターンシップ I	1休	秋田大学		1		1					
	インターンシップ II	2①	秋田大学		2		1					
	理工学特論 I	1休	秋田大学		1		1					
	理工学特論 II	1休	秋田大学		1		1					
	知的所有権論A	1前	秋田県立大学		2							5
	標準化論A	1後	秋田県立大学		2			2				2
専 門 科 目	信頼性工学A	1前	秋田県立大学		2							4
	プレゼンテーション	1後	秋田県立大学		2		1					2
	小計(17科目)	－										
	(専攻共通)											
	サステナブル工学概論	1②	秋田大学	1			2	1				
	地域産業論	1後	秋田大学		2		1					
	熱流体エネルギー工学特論	1①	秋田大学		2		1					
	スマートエネルギー情報工学	1④	秋田大学		1		1					
	地域産業プロジェクト演習	1通	秋田大学	2			3	7	3			
	地域産業プロジェクト演習	1通	秋田県立大学	2			3	4				
	サステナブル工学特別研究	1-2通	秋田大学	10			3	7	3			
	サステナブル工学特別研究	1-2通	秋田県立大学	10			3	4				
	経営経済学	1後	秋田県立大学		2							1
	実践経営工学	1前	秋田県立大学	2								1
	システム構築論	1前	秋田県立大学		2							1
	地域産業活性演習	1後	秋田県立大学		2							1
専 門 科 目	環境リスク管理技術特論	1前	秋田県立大学		2			1				
	通信システム特論	1後	秋田県立大学		2			1				
	(エレクトロモビリティコース) ＜輸送・機械システム＞											
	航空システム工学概論	1①	秋田大学		1							1
	航空システム工学実践論	1②	秋田大学		1		1					1
	Aero-Space Engineering I	1休	秋田大学		1							1
	Aero-Space Engineering II	1休	秋田大学		1							1
	航空機構造力学	1前	秋田大学		2							1
	航空システム制御工学特論	1後	秋田大学		2				1			
	電気自動車システム工学	1①	秋田大学		1		1					
	ロボット工学特論	1前	秋田県立大学		2		1					
	輸送機械特別研修I	1休	秋田県立大学			1						1
	輸送機械特別研修II	1休	秋田県立大学			1						1

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	構 成 大 学	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共 通 科 目	(共通科目A) ＜外国語等科目＞											
	Presentation Method	1①	秋田大学		1							1
	理工学英語	1②	秋田大学		1							1
	Talking about Science in English	1②	秋田大学		1							1
	Current Topics in Science and Engineering	1④	秋田大学		1							1
	実践英語A	1前	秋田県立大学		2							1
	英語プレゼンテーションA	1後	秋田県立大学		2							1
	(共通科目B) ＜倫理等科目＞											
	科学技術者倫理特論	1②	秋田大学		1							1
	科学技術と倫理	1・2前	秋田県立大学		2							1
	工学的失敗論A	1後	秋田県立大学		2							3
	(共通科目B) インターンシップ I	1休	秋田大学		1		1					
	インターンシップ II	2①	秋田大学		2		1					
	理工学特論 I	1休	秋田大学		1		1					
	理工学特論 II	1休	秋田大学		1		1					
	知的所有権論A	1前	秋田県立大学		2							5
	標準化論A	1後	秋田県立大学		2			2				2
専 門 科 目	信頼性工学A	1前	秋田県立大学		2							4
	プレゼンテーション	1後	秋田県立大学		2		1					2
	小計(17科目)	－										
	(専攻共通)											
	サステナブル工学概論	1②	秋田大学	1			2	1				
	地域産業論	1後	秋田大学		2		1					
	熱流体エネルギー工学特論	1①	秋田大学		2		1					
	スマートエネルギー情報工学	1④	秋田大学		1		1					
	地域産業プロジェクト演習	1通	秋田大学	2			3	7	3			
	地域産業プロジェクト演習	1通	秋田県立大学	2			3	4				
	サステナブル工学特別研究	1-2通	秋田大学	10			3	7	3			
	サステナブル工学特別研究	1-2通	秋田県立大学	10			3	4				
	経営経済学	1後	秋田県立大学		2							1
	実践経営工学	1前	秋田県立大学	2								1
	システム構築論	1前	秋田県立大学		2							1
	地域産業活性演習	1後	秋田県立大学		2							1
専 門 科 目	環境リスク管理技術特論	1前	秋田県立大学		2			1				
	通信システム特論	1後	秋田県立大学		2			1				
	(エレクトロモビリティコース) ＜輸送・機械システム＞											
	航空システム工学概論	1①	秋田大学		1							1
	航空システム工学実践論	1②	秋田大学		1		1					1
	Aero-Space Engineering I	1休	秋田大学		1							1
	Aero-Space Engineering II	1休	秋田大学		1							1
	航空機構造力学	1後	秋田大学		2							2
	航空システム制御工学特論	1後	秋田大学		2				1			
	電気自動車システム工学	1①	秋田大学		1		1					
	ロボット工学特論	1前	秋田県立大学		2		1					
	輸送機械特別研修I	1休	秋田県立大学			1						1
	輸送機械特別研修II	1休	秋田県立大学			1						1

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	構成大 学	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	<要素技術>											
	電磁エネルギー変換工学	1前	秋田大学		2		1					
	アドバンスト制御工学Ⅰ	1③	秋田大学		1			1				
	アドバンスト制御工学Ⅱ	1④	秋田大学		1			1				
	数値熱流体力学	1①	秋田大学		2							1
	先端力学計測	1前	秋田大学		2				1			
	電気機器モデル学特論Ⅰ	1①	秋田大学		1				1			
	電気機器モデル学特論Ⅱ	1②	秋田大学		1				1			
	1DCAE特論	1①	秋田大学		2			1				
	モデルベース開発実践論	1③	秋田大学		1		1					
	エネルギー変換工学特論	1後	秋田県立大学		2							1
	三次元CAD運用論	1前	秋田県立大学		2							1
	人間機械系設計論	1後	秋田県立大学		2							1
	ナノ材料学	1前	秋田県立大学		2		1					
	メカトロニクス特論	1後	秋田県立大学		2							1
	(社会環境システムコース)											
	<環境配慮設計(ライフサイクルデザイン)>											
	ライフサイクルデザイン工学基礎	1前	秋田大学		2		1					
	金属資源リサイクル	2②	秋田大学		1							1
	高温物性学	1前	秋田大学		2				1			
	地球環境分析科学	1後	秋田大学		2				1			
	化学プロセスデザイン学	1後	秋田大学		2				1			
	分子計算材料学Ⅰ	1①	秋田大学		1				1			
	分子計算材料学Ⅱ	1②	秋田大学		1				1			
	都市システム計画特論	1前	秋田大学		2							1
	ライフサイクルプランニング基礎	1前	秋田県立大学		2				2			2
	ライフサイクルアセスメント	1前	秋田県立大学		2				1			
	環境型生産管理論	1後	秋田県立大学		2							1
	ライフサイクルデザイン製品技術論	1後	秋田県立大学		2							1
	プラズマ工学	1後	秋田県立大学		2		1					
	音環境工学	1後	秋田県立大学		2							1
	都市環境論	1後	秋田県立大学		2				1			1
	<再生可能エネルギー>											
	地域エネルギーシステム特論	1後	秋田大学		2				1			
	新エネルギー利用論Ⅰ	1休	秋田大学		1		2	1				3
	新エネルギー利用論Ⅱ	1休	秋田大学		1		2	1				3
	環境・エネルギー工学	1前	秋田県立大学		2							1
	風車工学	1前	秋田県立大学		2		1					
	固体物性工学特論	1前	秋田県立大学		2							1
	小計(59科目)	－										
合計(76科目)	－											
卒業要件及び履修方法												
必修科目を含めて30単位以上(秋田大学と秋田県立大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び試験に合格すること。 [履修方法] ・各コースの学生は、共通科目の外国語等科目または専門科目のAero-Space EngineeringⅠ・Ⅱから1単位以上、倫理等科目から1単位以上を履修すること。 ・エレクトロモビリティコースの学生は、輸送・機械システムから4単位以上、要素技術から4単位以上を履修すること。 ・社会環境システムコースの学生は、環境配慮設計(ライフサイクルデザイン)から4単位以上、再生可能エネルギーから4単位以上を履修すること。 ・修了要件の30単位に、両大学院の他専攻で修得した科目を2単位まで含めることができる。												

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	構成大 学	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	<要素技術>											
	電磁エネルギー変換工学	1前	秋田大学		2		1					
	アドバンスト制御工学Ⅰ	1③	秋田大学		1			1				
	アドバンスト制御工学Ⅱ	1④	秋田大学		1			1				
	数値熱流体力学	1①	秋田大学		2							1
	先端力学計測	1前	秋田大学		2				1			
	電気機器モデル学特論Ⅰ	1①	秋田大学		1				1			
	電気機器モデル学特論Ⅱ	1②	秋田大学		1				1			
	1DCAE特論	1①	秋田大学		2			1				
	モデルベース開発実践論	1③	秋田大学		1		1					
	エネルギー変換工学特論	1後	秋田県立大学		2							1
	三次元CAD運用論	1前	秋田県立大学		2							1
	人間機械系設計論	1後	秋田県立大学		2							1
	ナノ材料学	1前	秋田県立大学		2		1					
	メカトロニクス特論	1後	秋田県立大学		2							1
	(社会環境システムコース)											
	<環境配慮設計(ライフサイクルデザイン)>											
	ライフサイクルデザイン工学基礎	1前	秋田大学		2		1					
	金属資源リサイクル	2②	秋田大学		1							1
	高温物性学	1前	秋田大学		2				1			
	地球環境分析科学	1後	秋田大学		2				1			
	化学プロセスデザイン学	1後	秋田大学		2				1			
	分子計算材料学Ⅰ	1①	秋田大学		1				1			
	分子計算材料学Ⅱ	1②	秋田大学		1				1			
	都市システム計画特論	1前	秋田大学		2							1
	ライフサイクルプランニング基礎	1前	秋田県立大学		2			2				2
	ライフサイクルアセスメント	1前	秋田県立大学		2				1			
	環境型生産管理論	1後	秋田県立大学		2							1
	ライフサイクルデザイン製品技術論	1後	秋田県立大学		2							1
	プラズマ工学	1後	秋田県立大学		2		1					
	音環境工学	1後	秋田県立大学		2							1
	都市環境論	1後	秋田県立大学		2			1				1
	<再生可能エネルギー>											
	地域エネルギーシステム特論	1後	秋田大学		2				1			
	新エネルギー利用論Ⅰ	1休	秋田大学		1		2	1				3
	新エネルギー利用論Ⅱ	1休	秋田大学		1		2	1				3
	環境・エネルギー工学	1前	秋田県立大学		2							1
	風車工学	1前	秋田県立大学		2		1					
	固体物性工学特論	1前	秋田県立大学		2							1
	小計(59科目)	－										
合計(76科目)	－											
卒業要件及び履修方法												
必修科目を含めて30単位以上(秋田大学と秋田県立大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び試験に合格すること。 [履修方法] ・各コースの学生は、共通科目の外国語等科目または専門科目のAero-Space EngineeringⅠ・Ⅱから1単位以上、倫理等科目から1単位以上を履修すること。 ・エレクトロモビリティコースの学生は、輸送・機械システムから4単位以上、要素技術から4単位以上を履修すること。 ・社会環境システムコースの学生は、環境配慮設計(ライフサイクルデザイン)から4単位以上、再生可能エネルギーから4単位以上を履修すること。 ・修了要件の30単位に、両大学院の他専攻で修得した科目を2単位まで含めることができる。												

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	構 成 大 学	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共 通 科 目	(共通科目A) ＜外国語等科目＞											
	Presentation Method	1③	秋田大学		1							1
	理工学英語	1①	秋田大学		1							1
	Talking about Science in English	1②	秋田大学		1							1
	Current Topics in Science and Engineering	1③	秋田大学		1							1
	実践英語A	1前	秋田県立大学		2							1
	英語プレゼンテーションA	1後	秋田県立大学		2							1
	＜倫理等科目＞											
	科学技術者倫理特論	1②	秋田大学		1							1
	科学技術と倫理	1・2前	秋田県立大学		2							1
	工学的失敗論A	1後	秋田県立大学		2							3
	(共通科目B)											
	インターンシップⅠ	1休	秋田大学		1		1					
	インターンシップⅡ	2①	秋田大学		2		1					
	理工学特論Ⅰ	1休	秋田大学		1		1					
	理工学特論Ⅱ	1休	秋田大学		1		1					
	知的所有権論A	1前	秋田県立大学		2							5
	標準化論A	1後	秋田県立大学		2			2				2
	信頼性工学A	1前	秋田県立大学		2							4
	プレゼンテーション	1後	秋田県立大学		2		1					2
	小計(17科目)	－										
専 門 科 目	(専攻共通)											
	サステナブル工学概論	1②	秋田大学	1			2	1				
	地域産業論	1後	秋田大学		2		1					
	熱流体エネルギー工学特論	1①	秋田大学		2		1					
	スマートエネルギー情報工学	1④	秋田大学		1		1					
	地域産業プロジェクト演習	1通	秋田大学	2			3	7	3			
	地域産業プロジェクト演習	1通	秋田県立大学	2			3	4				
	サステナブル工学特別研究	1-2通	秋田大学	10			3	7	3			
	サステナブル工学特別研究	1-2通	秋田県立大学	10			3	4				
	経営経済学	1後	秋田県立大学		2							1
	実践経営工学	1前	秋田県立大学	2								1
	システム構築論	1前	秋田県立大学		2							1
	地域産業活性演習	1後	秋田県立大学		2							1
	環境リスク管理技術特論	1前	秋田県立大学		2			1				
	通信システム特論	1後	秋田県立大学		2			1				
	(エレクトロモビリティコース)											
	＜輸送・機械システム＞											
	航空システム工学概論	1①	秋田大学		1							1
	航空システム工学実践論	1②	秋田大学		1		1					1
	Aero-Space EngineeringⅠ	1休	秋田大学		1							1
	Aero-Space EngineeringⅡ	1休	秋田大学		1							1
	航空機構造力学	1後	秋田大学		2							2
	航空システム制御工学特論	1後	秋田大学		2				1			
	電気自動車システム工学	1①	秋田大学		1		1					
	ロボット工学特論	1前	秋田県立大学		2		1					
	輸送機械特別研修Ⅰ	1休	秋田県立大学			1						1
	輸送機械特別研修Ⅱ	1休	秋田県立大学			1						1

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	構成大 学	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	<要素技術>											
	電磁エネルギー変換工学	1前	秋田大学		2		1					
	アドバンスト制御工学Ⅰ	1③	秋田大学		1			1				
	アドバンスト制御工学Ⅱ	1④	秋田大学		1			1				
	数値熱流体力学	1①	秋田大学		2							1
	先端力学計測	1前	秋田大学		2				1			
	電気機器モデル学特論Ⅰ	1①	秋田大学		1				1			
	電気機器モデル学特論Ⅱ	1②	秋田大学		1				1			
	1DCAE特論	1①	秋田大学		2			1				
	モデルベース開発実践論	1③	秋田大学		1		1					
	エネルギー変換工学特論	1後	秋田県立大学		2							1
	三次元CAD運用論	1前	秋田県立大学		2							1
	人間機械系設計論	1後	秋田県立大学		2							1
	ナノ材料学	1前	秋田県立大学		2		1					
	メカトロニクス特論	1後	秋田県立大学		2							1
	(社会環境システムコース)											
	<環境配慮設計(ライフサイクルデザイン)>											
	ライフサイクルデザイン工学基礎	1前	秋田大学		2		1					
	金属資源リサイクル	2②	秋田大学		1							1
	高温物性学	1前	秋田大学		2				1			
	地球環境分析科学	1後	秋田大学		2				1			
	化学プロセスデザイン学	1後	秋田大学		2				1			
	分子計算材料学Ⅰ	1①	秋田大学		1				1			
	分子計算材料学Ⅱ	1②	秋田大学		1				1			
	都市システム計画特論	1前	秋田大学		2							1
	ライフサイクルプランニング基礎	1前	秋田県立大学		2				2			2
	ライフサイクルアセスメント	1前	秋田県立大学		2				1			
	環境型生産管理論	1後	秋田県立大学		2							1
	ライフサイクルデザイン製品技術論	1後	秋田県立大学		2							1
	プラズマ工学	1後	秋田県立大学		2		1					
	音環境工学	1後	秋田県立大学		2							1
	都市環境論	1後	秋田県立大学		2				1			1
	<再生可能エネルギー>											
	地域エネルギーシステム特論	1後	秋田大学		2				1			
	新エネルギー利用論Ⅰ	1休	秋田大学		1		2	1				3
	新エネルギー利用論Ⅱ	1休	秋田大学		1		2	1				3
	環境・エネルギー工学	1前	秋田県立大学		2							1
	風車工学	1前	秋田県立大学		2		1					
	固体物性工学特論	1前	秋田県立大学		2							1
	小計(59科目)	－										
合計(76科目)	－											
卒業要件及び履修方法												
必修科目を含めて30単位以上(秋田大学と秋田県立大学の開設科目からそれぞれ10単位以上を含む)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び試験に合格すること。 [履修方法] ・各コースの学生は、共通科目の外国語等科目または専門科目のAero-Space EngineeringⅠ・Ⅱから1単位以上、倫理等科目から1単位以上を履修すること。 ・エレクトロモビリティコースの学生は、輸送・機械システムから4単位以上、要素技術から4単位以上を履修すること。 ・社会環境システムコースの学生は、環境配慮設計(ライフサイクルデザイン)から4単位以上、再生可能エネルギーから4単位以上を履修すること。 ・修了要件の30単位に、両大学院の他専攻で修得した科目を2単位まで含めることができる。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の2)に準じて作成してください。

・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。

・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。

・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。

・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。

・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- 10

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

・講師の都合により分担教員を増やす必要が生じたため、「航空機構造力学」の配当年次を「1前」から「1後」に、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。

【令和5年度】

・講師の都合により配当年次を変更。「Presentation Method」1③→1①, 「理工学英語」1①→1②, 「Current topics in Science in English」1③→1④

- (注) ・ 2 (1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

大学名	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計（Ａ）	必修	選択	自由	計	
秋田大学	3 科目	39 科目	0 科目	42 科目	3 科目 []	39 科目 []	0 科目 []	42 科目 []	
秋田県立大学	3 科目	29 科目	2 科目	34 科目	3 科目 []	29 科目 []	2 科目 []	34 科目 []	

（注）・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

(3) 未開講科目

	番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
秋田大学	1						該当なし
	2						
	3						
秋田県立大学	1						該当なし
	2						
	3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

	番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
秋田大学	1						該当なし
	2						
	3						
秋田県立大学	1						該当なし
	2						
	3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

秋田大学：該当なし

秋田県立大学：該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(秋田大学)

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{42} = \boxed{0} \%$$

(秋田県立大学)

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{34} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(秋田大学)

区 分		内 容				備考			
(1)校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	258,144㎡	0㎡	0㎡	258,144㎡				
	運動場用地	76,253㎡	0㎡	0㎡	76,253㎡				
	小 計	334,397㎡	0㎡	0㎡	334,397㎡				
	そ の 他	104,031㎡	0㎡	0㎡	104,031㎡				
	合 計	438,428㎡	0㎡	0㎡	438,428㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		126,955㎡ (126,955 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	126,955㎡ (126,955 ㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		91室	131室	570室	12室 (補助職員 4人)	6室 (補助職員 1人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		理工学研究科共同サステナブル工学専攻			13 室				
(5)図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書・設備の更新（５）	
	理工学研究科 共同サステナブル 工学専攻	559,396 [172,680] (549,769 [171,428]) (548,202 [171,071])	20,441 [10,222] (21,083 [10,750]) (21,307 [14,914])	7,250 [5,800] (7,918 [6,352]) (7,996 [6,430])	4,253 (4,061) (4,053)	()	()		
	計	559,396 [172,680] (549,769 [171,428]) (548,202 [171,071])	20,441 [10,222] (21,083 [10,750]) (21,307 [14,914])	7,250 [5,800] (7,918 [6,352]) (7,996 [6,430])	4253 (4,061) (4,053)	()	()		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		6,321㎡		686		576,695			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		7,908		陸上競技場、野球場、多目的運動場、テニスコート、プール					
(8)経費の見 積り及び 維持方法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員１人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生１人当り 納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

(秋田県立大学)

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	372,064㎡	0㎡	0㎡	372,064㎡				
	運動場用地	300,119㎡	0㎡	0㎡	300,119㎡				
	小 計	672,183㎡	0㎡	0㎡	672,183㎡				
	そ の 他	2,146,572㎡	0㎡	0㎡	2,146,572㎡				
	合 計	2,818,755㎡	0㎡	0㎡	2,818,755㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		92,279㎡ (92,279㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	92,279㎡ (92,279㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
		32室	17室	224室	9室 (補助職員 2人)	2室 (補助職員 2人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		システム科学技術研究科共同サステナブル工学専攻			7 室				
(5)図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科単位での算出不可能なため、学部との合算。 実績増と、実績増に伴う見込数量を再計算したため(5)	
		システム科学技術研究科共同サステナブル工学専攻	142,000 [34,400] 135,641 [32,944] (138,839 [33,605]) (135,641 [32,944])	4,800 [3,900] 4,708 [3,811] (4,767 [3,875]) (4,708 [3,811])	3,450 [3,440] 3,352 [3,342] (3,432 [3,422]) (3,352 [3,342])	2,310 2,270 (2,301) (2,270)	1,720 1,663 (1,636) (1,663)		— (—)
		計	142,000 [34,400] 135,641 [32,944] (138,839 [33,605]) (135,641 [32,944])	4,800 [3,900] 4,708 [3,811] (4,767 [3,875]) (4,708 [3,811])	3,450 [3,440] 3,352 [3,342] (3,432 [3,422]) (3,352 [3,342])	2,310 2,270 (2,301) (2,270)	1,720 1,663 (1,682) (1,663)		— (—)
	(6)図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数	大学全体			
			4,769㎡	629	316138				
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		4,199㎡		ト レ ー ニ ン グ ル ー ム	314㎡ (2室)				
				テ ニ ス コ ー ト	10面				
				野 球 場	1 (両翼100m)				
				陸 上 競 技 場	2 (400m/周)				
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は研究科単位での算出不可能なため、学部との合算。 図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コストを含む）も含まれる。 R5図書購入費は予算減による。(5)
		教員1人当たり研究費等	997千円	972千円	図書購入費	22,500千円	22,800千円	22,500千円 22,800千円	
		共同研究費等	178,315千円	178,315千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		818千円	536千円	一千円	一千円	一千円	一千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		運営交付金（秋田県）、受託研究事業収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の2）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（5）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。
 - ・ 構成大学ごとに記入してください。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	秋 田 大 学									平均入学定員 超過率0.7倍以 下の学科数	0	平均入学定員 超過率1.15倍 以上の学科数	0	収容定員充足 率0.7倍以下の 学科数	0	収容定員充足 率1.15倍以上 の学科数	0
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考				
国際資源学部	4	120	—	480	—	1.02	—	1.07	—	—	平成26	—	秋田県秋田市手形学園町1番1号	平成26年度入学定員増（10人）			
国際資源学科	4	120	—	480	学士 (資源学)	1.02	—	1.07	—	—	平成26	—					
教育文化学部	4	210	—	840	—	1.03	—	1.05	—	—		—					
学校教育課程	4	110	—	440	学士 (学校教育)	1.03	—	1.06	—	—	平成10	秋田県秋田市手形学園町1番1号					
地域文化学科	4	100	—	400	学士 (地域文化)	1.03	—	1.05	—	—	平成26	同上					
医学部	—	230	—	1,221	—	1.00	—	0.99	—	令和5		—	秋田県秋田市本道1丁目1番1号	令和5年度入学定員増（29人）			
医学科	6	124	2年次 5	769	学士 (医学)	1.00	—	1.01	—	令和5	昭和45	—					
保健学科	4	106	3年次 14	452	学士 (看護学) 学士 (保健学)	1.00	—	0.95	—	—	平成14	同上					
理工学部	4	395	3年次 12	1,604	—	1.02	1.02	1.06	1.06	—	平成26	—	秋田県秋田市手形学園町1番1号				
生命科学科	4	45	—	180	学士 (理学)	1.02	1.01	1.02	1.01	—	平成26	—					
物質科学科	4	110	—	440	学士 (理工学)	1.01	—	1.04	—	—	平成26	同上					
数理・電気電子情報学科	4	120	—	480	学士 (理学) 学士 (工学)	1.04	—	1.10	—	—	平成26	同上					
システムデザイン工学科	4	120	—	480	学士 (工学)	1.03	1.03	1.11	1.11	—	平成26	同上					
各学科共通			3年次 12	24													
大学全体	—	955	31	4,145	—	—	—	—	—	—	—	—	—				

大 学 の 名 称	秋田県立大学									平均入学定員 超過率0.7倍以下 の学科数	0	平均入学定員 超過率1.15倍 以上の学科数	0	収容定員充足 率0.7倍以下の 学科数	0	収容定員充足 率1.15倍以上 の学科数	0	
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備考					
	年	人	年次 人	人		倍		倍	倍	年度	年度							
システム科学 技術学部	4	240	－	960		1.05	－	1.05	－	－	平成11	秋田県由利本荘市 土谷字海老ノ口84 番4	平成30年度より学生募集停止					
機械工学科	4	60	－	240	学士 (工学)	1.10	－	1.07	－	－	平成30							
知能メカトロ ニクス学科	4	60	－	240	学士 (工学)	1.02	－	1.00	－	－	平成30							同上
情報工学科	4	40	－	160	学士 (工学)	1.05	－	1.08	－	－	平成30							同上
建築環境 システム学科	4	40	－	160	学士 (工学)	1.05	－	1.04	－	－	平成11							同上
経営システム 工学科	4	40	－	160	学士 (工学)	1.03	－	1.06	－	－	平成11							同上
機械知能 システム学科	4	－	－	－	学士 (工学)	－	－	－	－	－	平成11							－
電子情報 システム学科	4	－	－	－	学士 (工学)	－	－	－	－	－	平成11							－
生物資源科学部	4	150	－	600		1.08	－	1.09	－	－	平成25	秋田県秋田市下新 城中野字街道端西 241番438	平成30年度より学生募集停止					
応用生物科学科	4	40	－	160	学士 (生物資 源科学)	1.08	－	1.10	－	－	平成25							
生物生産科学科	4	40	－	160	学士 (生物資 源科学)	1.05	－	1.04	－	－	平成25							同上
生物環境科学科	4	30	－	120	学士 (生物資 源科学)	1.08	－	1.08	－	－	平成25							同上
アグリビジネス学科	4	40	－	160	学士 (農学)	1.11	－	1.13	－	－	平成25							秋田県南秋田郡大 湯村字南2丁目2番 地
大学全体	4	390		1560	－	－	－	－	－	－	－	－						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
（様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。）
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「－」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後含む）」及び「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

(1) -① 担当教員表
＜秋田大学＞

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	足立 高弘 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		熱流体エネルギー工学特論 スマートエネルギー情報工 学 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 航空システム工学実践論※
専	教授	田島 克文 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		インターンシップⅠ インターンシップⅡ 理工学特論Ⅰ 理工学特論Ⅱ サステナブル工学概論※ 地域産業論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 新エネルギー利用論Ⅰ※ 新エネルギー利用論Ⅱ※ 電磁エネルギー変換工学 電気自動車システム工学 モデルベース開発実践論
専	教授	三島 望 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		サステナブル工学概論※ 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 ライフサイクルデザイン工 学基礎 新エネルギー利用論Ⅰ※ 新エネルギー利用論Ⅱ※
専	准教授	秋永 剛 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 IDCAE特論
専	准教授	佐藤 芳幸 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 分子計算材料学Ⅰ 分子計算材料学Ⅱ

【令和4年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	足立 高弘 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		熱流体エネルギー工学特論 スマートエネルギー情報工 学 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 航空システム工学実践論※
専	教授	田島 克文 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		インターンシップⅠ インターンシップⅡ 理工学特論Ⅰ 理工学特論Ⅱ サステナブル工学概論※ 地域産業論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 新エネルギー利用論Ⅰ※ 新エネルギー利用論Ⅱ※ 電磁エネルギー変換工学 電気自動車システム工学 モデルベース開発実践論
専	教授	三島 望 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		サステナブル工学概論※ 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 ライフサイクルデザイン工 学基礎 新エネルギー利用論Ⅰ※ 新エネルギー利用論Ⅱ※
専	准教授	秋永 剛 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 IDCAE特論
専	准教授	佐藤 芳幸 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 分子計算材料学Ⅰ 分子計算材料学Ⅱ

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	足立 高弘 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		熱流体エネルギー工学特論 スマートエネルギー情報工 学 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 航空システム工学実践論※
専	教授	田島 克文 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		インターンシップⅠ インターンシップⅡ 理工学特論Ⅰ 理工学特論Ⅱ サステナブル工学概論※ 地域産業論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 新エネルギー利用論Ⅰ※ 新エネルギー利用論Ⅱ※ 電磁エネルギー変換工学 電気自動車システム工学 モデルベース開発実践論
専	教授	三島 望 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		サステナブル工学概論※ 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 ライフサイクルデザイン工 学基礎 新エネルギー利用論Ⅰ※ 新エネルギー利用論Ⅱ※
専	准教授	秋永 剛 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 IDCAE特論
専	准教授	佐藤 芳幸 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 分子計算材料学Ⅰ 分子計算材料学Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	菅原 透 () ＜令和４年４月＞ 博士（理学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 高温物性学
専	准教授	高橋 博 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 化学プロセスデザイン学
専	准教授	福山 繭子 () ＜令和４年４月＞ 博士（理学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 地球環境分析科学 新エネルギー利用論Ⅰ※
専	准教授	三浦 武 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 アドバンス制御工学Ⅰ アドバンス制御工学Ⅱ
専	准教授	古林 敬顕 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		サステナブル工学概論※ 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 地域エネルギーシステム特 論 新エネルギー利用論Ⅱ※
専	講師	木下 幸則 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 先端力学計測
専	講師	吉田 征弘 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 電気機器モデル学特論Ⅰ 電気機器モデル学特論Ⅱ
専	講師	平山 弘 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 航空システム制御工学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	菅原 透 () ＜令和４年４月＞ 博士（理学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 高温物性学
専	准教授	高橋 博 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 化学プロセスデザイン学
専	准教授	福山 繭子 () ＜令和４年４月＞ 博士（理学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 地球環境分析科学 新エネルギー利用論Ⅰ※
専	准教授	三浦 武 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 アドバンス制御工学Ⅰ アドバンス制御工学Ⅱ
専	准教授	古林 敬顕 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		サステナブル工学概論※ 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 地域エネルギーシステム特 論 新エネルギー利用論Ⅱ※
専	講師	木下 幸則 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 先端力学計測
専	講師	吉田 征弘 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 電気機器モデル学特論Ⅰ 電気機器モデル学特論Ⅱ
専	講師	平山 弘 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 航空システム制御工学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	菅原 透 () ＜令和４年４月＞ 博士（理学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 高温物性学
専	准教授	高橋 博 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 化学プロセスデザイン学
専	准教授	福山 繭子 () ＜令和４年４月＞ 博士（理学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 地球環境分析科学 新エネルギー利用論Ⅰ※
専	准教授	三浦 武 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 アドバンス制御工学Ⅰ アドバンス制御工学Ⅱ
専	准教授	古林 敬顕 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		サステナブル工学概論※ 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 地域エネルギーシステム特 論 新エネルギー利用論Ⅱ※
専	講師	木下 幸則 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 先端力学計測
専	講師	吉田 征弘 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 電気機器モデル学特論Ⅰ 電気機器モデル学特論Ⅱ
専	講師	平山 弘 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究 航空システム制御工学特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	熊谷 誠治 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅰ※
兼任	教授	村岡 幹夫 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		航空システム工学概論
兼任	教授	山口 留美子 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅱ※
兼任	教授	田子 真 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅱ※
兼任	准教授	小松 喜美 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		数値熱流体力学
兼任	准教授	日野 智 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		都市システム計画特論
兼任	講師	杉山 渉 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅰ※
兼任	講師	吉沢 文武 () ＜令和４年４月＞ 博士（文学）
		科学技術者倫理特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	熊谷 誠治 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅰ※
兼任	教授	村岡 幹夫 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		航空システム工学概論
兼任	教授	山口 留美子 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅱ※
兼任	教授	田子 真 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅱ※
兼任	准教授	小松 喜美 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		数値熱流体力学
兼任	准教授	日野 智 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		都市システム計画特論
兼任	講師	杉山 渉 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅰ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	熊谷 誠治 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅰ※
兼任	教授	村岡 幹夫 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		航空システム工学概論
兼任	教授	山口 留美子 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅱ※
兼任	講師	田子 真 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅱ※
兼任	准教授	小松 喜美 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		数値熱流体力学
兼任	准教授	日野 智 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		都市システム計画特論
兼任	講師	杉山 渉 () ＜令和４年４月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅰ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大木 達哉 () ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		金属資源リサイクル
兼任	講師	石山 聰 () ＜令和4年4月＞ 高等学校卒
		新エネルギー利用論Ⅰ※
兼任	講師	遠田 幸生 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅱ※
兼任	講師	齋藤 英文 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		航空システム工学実践論※
兼任	講師	Patrick Norman () ＜令和4年4月＞ PhD
		Aero-Space Engineering Ⅰ
兼任	講師	Victor Norrefeldt () ＜令和4年4月＞ Dr. Eng
		Aero-Space Engineering Ⅱ
兼任	講師	渋谷 嗣 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		航空機構造力学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	中村 雅英 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		科学技術者倫理特論
兼任	講師	大木 達哉 () ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		金属資源リサイクル
兼任	講師	石山 聰 () ＜令和4年4月＞ 高等学校卒
		新エネルギー利用論Ⅰ※
兼任	講師	遠田 幸生 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅱ※
兼任	講師	齋藤 英文 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		航空システム工学実践論※
兼任	講師	Patrick Norman () ＜令和4年4月＞ PhD
		Aero-Space Engineering Ⅰ
兼任	講師	Victor Norrefeldt () ＜令和4年4月＞ Dr. Eng
		Aero-Space Engineering Ⅱ
兼任	講師	渋谷 嗣 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		航空機構造力学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	中村 雅英 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		科学技術者倫理特論
兼任	講師	大木 達哉 () ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		金属資源リサイクル
兼任	講師	石山 聰 () ＜令和4年4月＞ 高等学校卒
		新エネルギー利用論Ⅰ※
兼任	講師	遠田 幸生 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		新エネルギー利用論Ⅱ※
兼任	講師	齋藤 英文 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		航空システム工学実践論※
兼任	講師	Patrick Norman () ＜令和4年4月＞ PhD
		Aero-Space Engineering Ⅰ
兼任	講師	Victor Norrefeldt () ＜令和4年4月＞ Dr. Eng
		Aero-Space Engineering Ⅱ
兼任	講師	渋谷 嗣 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		航空機構造力学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	GRAVE (NAKASHI) EWA MALGORZATA () <令和 4 年 4 月> 博士 (理学)
		Presentation Method 理工学英語 Talking about Science in English Current Topics in Science and Engineering

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小林 義和 () <令和 4 年 4 月> 博士 (工学)
		航空機構造力学※
兼任	講師	GRAVE (NAKASHI) EWA MALGORZATA () <令和 4 年 4 月> 博士 (理学)
		Presentation Method 理工学英語 Current Topics in Science and Engineering
兼任	講師	WATTERS EAMON PATRICK JOHN () <令和 4 年 4 月> 博士 (工学)
		Talking about Science in English

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月 > 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小林 義和 () <令和 4 年 4 月> 博士 (工学)
		航空機構造力学※
兼任	講師	Martin Spivey () <令和 5 年 4 月> 博士 (理学)
		Presentation Method 理工学英語
兼任	講師	WATTERS EAMON PATRICK JOHN () <令和 4 年 4 月> 博士 (工学)
		Talking about Science in English Current Topics in Science and Engineering

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

＜秋田県立大学＞

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	杉本 尚哉 () ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		プラズマ工学 風車工学 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	教授	尾藤 輝夫 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		プレゼンテーション ナノ材料学 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	教授	下井 信浩 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		ロボット工学特論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	戸花 照雄 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		標準化論A 通信システム特論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	浅野 耕一 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		都市環境論※ 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	金澤 伸浩 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		ライフサイクルプランニング 基礎※ 環境リスク管理技術特論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	梁 瑞録 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		標準化論A※ ライフサイクルアセスメント ライフサイクルプランニング基礎 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

【令和4年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	杉本 尚哉 () ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		プラズマ工学 風車工学 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	教授	尾藤 輝夫 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		プレゼンテーション ナノ材料学 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	教授	下井 信浩 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		ロボット工学特論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	戸花 照雄 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		標準化論A 通信システム特論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	浅野 耕一 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		都市環境論※ 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	金澤 伸浩 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		ライフサイクルプランニング 基礎※ 環境リスク管理技術特論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	梁 瑞録 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		標準化論A※ ライフサイクルアセスメント ライフサイクルプランニング基礎 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	杉本 尚哉 () ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		プラズマ工学 風車工学 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	教授	尾藤 輝夫 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		プレゼンテーション ナノ材料学 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	教授	下井 信浩 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		ロボット工学特論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	戸花 照雄 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		標準化論A 通信システム特論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	浅野 耕一 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		都市環境論※ 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	金澤 伸浩 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		ライフサイクルプランニング 基礎※ 環境リスク管理技術特論 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究
専	准教授	梁 瑞録 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		標準化論A※ ライフサイクルアセスメント ライフサイクルプランニング基礎 地域産業プロジェクト演習 サステナブル工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	邱 建輝 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A
兼任	教授	水野 衛 () ＜令和4年4月＞ 工学博士
		信頼性工学A
兼任	教授	富岡 隆弘 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		工学の失敗論A 人間機械系設計論 輸送機械特別研修Ⅰ 輸送機械特別研修Ⅱ
兼任	教授	鈴木 庸久 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A 標準化論A
兼任	教授	小谷 光司 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A 標準化論A
兼任	教授	能勢 敏明 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		プレゼンテーション
兼任	教授	齋藤 直樹 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		メカトロニクス特論
兼任	教授	堂坂 浩二 () ＜令和4年4月＞ 博士（情報科学）
		信頼性工学A
兼任	教授	西口 正之 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A
兼任	教授	西田 哲也 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		工学の失敗論A
兼任	教授	板垣 直行 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		信頼性工学A

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	邱 建輝 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A
兼任	教授	水野 衛 () ＜令和4年4月＞ 工学博士
		信頼性工学A
兼任	教授	富岡 隆弘 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		工学の失敗論A 人間機械系設計論 輸送機械特別研修Ⅰ 輸送機械特別研修Ⅱ
兼任	教授	鈴木 庸久 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A 標準化論A
兼任	教授	小谷 光司 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A 標準化論A
兼任	教授	能勢 敏明 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		プレゼンテーション
兼任	教授	齋藤 直樹 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		メカトロニクス特論
兼任	教授	堂坂 浩二 () ＜令和4年4月＞ 博士（情報科学）
		信頼性工学A
兼任	教授	西口 正之 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A
兼任	教授	西田 哲也 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		工学の失敗論A
兼任	教授	板垣 直行 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		信頼性工学A

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	邱 建輝 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A
兼任	教授	水野 衛 () ＜令和4年4月＞ 工学博士
		信頼性工学A
兼任	教授	富岡 隆弘 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		工学の失敗論A 人間機械系設計論 輸送機械特別研修Ⅰ 輸送機械特別研修Ⅱ
兼任	教授	鈴木 庸久 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A 標準化論A
兼任	教授	小谷 光司 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A 標準化論A
兼任	教授	能勢 敏明 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		プレゼンテーション
兼任	教授	齋藤 直樹 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		メカトロニクス特論
兼任	教授	堂坂 浩二 () ＜令和4年4月＞ 博士（情報科学）
		信頼性工学A
兼任	教授	西口 正之 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A
兼任	教授	西田 哲也 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		工学の失敗論A
兼任	教授	板垣 直行 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		信頼性工学A

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	松本 真一 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A
兼任	教授	長谷川 兼一 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		標準化論A 都市環境論
兼任	教授	木村 寛 () ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		信頼性工学A
兼任	教授	山口 高康 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		システム構築論
兼任	准教授	高橋 武彦 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		三次元CAD運用論
兼任	准教授	高山 正和 () ＜令和4年4月＞ 工学博士
		エネルギー変換工学特論
兼任	准教授	山口 博之 () ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		固体物性工学特論
兼任	准教授	高根 昭一 () ＜令和4年4月＞ 博士（情報科学）
		音環境工学
兼任	准教授	クアドラ カルロス () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		プレゼンテーション
兼任	准教授	嶋崎 真仁 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		環境型生産管理論 実践経営工学 ライフサイクルプランニ ング基礎※ 地域産業活性演習
兼任	准教授	嶋崎 善章 () ＜令和4年4月＞ Ph. D (Economics)
		経営経済学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	松本 真一 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A
兼任	教授	長谷川 兼一 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		標準化論A 都市環境論
兼任	教授	木村 寛 () ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		信頼性工学A
兼任	教授	山口 高康 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		システム構築論
兼任	准教授	高橋 武彦 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		三次元CAD運用論
兼任	准教授	高山 正和 () ＜令和4年4月＞ 工学博士
		エネルギー変換工学特論
兼任	准教授	山口 博之 () ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		固体物性工学特論
兼任	准教授	クアドラ カルロス () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		プレゼンテーション
兼任	教授	嶋崎 真仁 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		環境型生産管理論 実践経営工学 ライフサイクルプランニ ング基礎※ 地域産業活性演習
兼任	准教授	嶋崎 善章 () ＜令和4年4月＞ Ph. D (Economics)
		経営経済学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	松本 真一 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的所有権論A
兼任	教授	長谷川 兼一 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		標準化論A 都市環境論
兼任	教授	木村 寛 () ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		信頼性工学A
兼任	教授	山口 高康 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		システム構築論
兼任	准教授	高橋 武彦 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		三次元CAD運用論
兼任	准教授	高山 正和 () ＜令和4年4月＞ 工学博士
		エネルギー変換工学特論
兼任	准教授	山口 博之 () ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		固体物性工学特論
兼任	准教授	クアドラ カルロス () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		プレゼンテーション
兼任	教授	嶋崎 真仁 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		環境型生産管理論 実践経営工学 ライフサイクルプランニ ング基礎※ 地域産業活性演習
兼任	准教授	嶋崎 善章 () ＜令和4年4月＞ Ph. D (Economics)
		経営経済学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	菊地 英治 () ＜令和4年4月＞ 工学博士	兼任	准教授	菊地 英治 () ＜令和4年4月＞ 工学博士	兼任	准教授	菊地 英治 () ＜令和4年4月＞ 工学博士
		知的所有権論A※ ライフサイクルプランニン グ基礎※ ライフサイクルデザイン製 品技術論			知的所有権論A※ ライフサイクルプランニン グ基礎※ ライフサイクルデザイン製 品技術論			知的所有権論A※ ライフサイクルプランニン グ基礎※ ライフサイクルデザイン製 品技術論
兼任	助教	アヴァンツイ カルロッタ () ＜令和4年4月＞ 修士（文学）	兼任	助教	アヴァンツイ カルロッタ () ＜令和4年4月＞ 修士（文学）	兼任	助教	アヴァンツイ カルロッタ () ＜令和4年4月＞ 修士（文学）
		英語プレゼンテー ションA			英語プレゼンテー ションA			英語プレゼンテー ションA
兼任	講師	熊谷 誠治 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	熊谷 誠治 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	熊谷 誠治 () ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		環境・エネルギー工学			環境・エネルギー工学			環境・エネルギー工学
			兼任	講師	高根 昭一 () ＜令和4年4月＞ 博士（情報科学）	兼任	講師	高根 昭一 () ＜令和4年4月＞ 博士（情報科学）
					音環境工学			音環境工学

- （注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してくださ
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の2）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してく
 - その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 構成大学ごとに記入してください。

(1) ー②担当教員表に関する変更内容

＜秋田大学＞

【令和 4 年度】 ・吉沢文武講師就任辞退により、中村雅英講師に変更。 ・航空機構造力学の担当に小林義和講師を追加。（渋谷嗣講師と分担） ・Talking about Science in Englishの担当をGRAVE EWA MALGORZATA講師からWATTERS EAMON PATRICK JOHN講師に変更。
【令和 5 年度】 ・『Presentation Method』、『理工学英語』の担当をグレイブ講師からマーティン講師に変更。 ・『Current Topics in Science in English』の担当をグレイブ講師からウォターズ講師に変更。

＜秋田県立大学＞

【令和 4 年度】 特になし。
【令和 5 年度】 特になし。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和 4 年度開設であれば令和 3 年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 構成大学ごとに記入してください。

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。

・「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

・「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

— 100 —

(注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 全構成大学の合計値で計算してください。

(2) 専任教員数等
(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

大学名	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
秋田大学	4 名	3 名	3 名
秋田県立 大学	4 名	3 名	3 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により
算出される教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員等数【大学院】

大学名	設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （A）	助手 （A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （B）	助手 （B'）
秋田大学	3	7	3	0	13	0	3	7	3	0	13	0
	(3)	(7)	(3)	(0)	(13)	(0)						
	研究指 導教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指 導教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
	10	3	3	0			10	3	3	0		
	(10)	(3)	(3)	(0)								
秋田県立 大学	4	3	0	0	7	0	4	3	0	0	7	0
	(4)	(3)	(0)	(0)	(7)	(0)						
	研究指 導教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指 導教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
	7	4	0	0			7	4	0	0		
	(7)	(4)	(0)	(0)								
大学名	現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （C）	助手 （C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （D）	助手 （D'）
秋田大学	3	7	3	0	13	0	3	7	3	0	13	0
	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
	研究指 導教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指 導教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
	10	3	3	0			10	3	3	0		
	[0]	[0]	[0]	[0]			[0]	[0]	[0]	[0]		
秋田県立 大学	4	3	0	0	7	0	4	3	0	0	7	0
	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
	研究指 導教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指 導教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
	7	4	0	0			7	4	0	0		
	[0]	[0]	[0]	[0]			[0]	[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、
教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、
「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)－③ 年齢構成

大学名	年齢構成		
	定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
秋田大学	65 歳	0 名	0 名
秋田県立 大学	67 歳	0 名	0 名

（注） ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

現在（報告時）の完成年度時の状況（C）

設置時の計画（A）

=

20

20

=

100

%

（注） ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

・ 全構成大学の合計値で計算してください。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数

現在（報告時）の状況（B）

=

0

20

=

0

%

（注） ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

・ 全構成大学の合計値で計算してください。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）

設置時の計画（A'）

=

0

0

=

-

%

（注） ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

・ 全構成大学の合計値で計算してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

大学名	番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
秋田大学			該当なし					
秋田県立大学			該当なし					

合計（D）				後任補充状況の集計（E）									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「（3）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

大学名	番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
秋田大学			該当なし					
秋田県立大学			該当なし					

合計（F）				後任補充状況の集計（G）									
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－③ 上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

(3)－③合計(D)+(F)

(2)－②設置時の計画(A)

=

0

%

#DIV/0!

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 全構成大学の合計値で計算してください。

(3)－⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0

人

- (注) ・ (3)－①、(3)－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3)－⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

大学名	番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
秋田大学			該当なし				
秋田県立大学			該当なし				

合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

秋田大学：該当なし
秋田県立大学：該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

(1) 設置計画変更事項等

<秋田大学>

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

<秋田県立大学>

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

……… [上記の様式と同様にして記載。]

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<秋田大学>

① 実施体制

a 委員会の設置状況

理工学研究科教育改善委員会

《関係規程等》

秋田大学大学院理工学研究科教育改善委員会規程

（趣旨）

第1条 秋田大学大学院理工学研究科及び理工学部における教育及び教員の教育に関する資質の向上に関する事項並びに理工学研究科評価委員会及び企画運営会議の付託事項を検討・実施するため、理工学研究科に教育改善委員会（以下「委員会」という。）を置き、委員会に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。

（審議事項）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 学生及び教員による授業評価の実施等に関すること。
- (2) JABEE認証の受審・更新の実施等に関すること。
- (3) 教育に関する外部評価の実施に関すること。
- (4) 教育改善に関わる調査・研究に関すること。
- (5) FD活動の実施等に関すること。
- (6) その他教育改善に関すること。

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 博士前期課程の各コース及び共同ライフサイクルデザイン工学専攻の教授または准教授各1名
- (2) その他研究科長が必要と認めた者

（任期）

第4条 任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長を置き、学務副委員長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を主宰する。
- 3 委員会に副委員長を置き、委員長が指名する。
- 4 委員長に事故等があるときは、副委員長がその職務を代行する。

（議事）

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の出席）

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外のものを委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

（庶務）

第8条 委員会の庶務は、理工学研究科事務部の協力を得て、総合学務課において処理する。

（補則）

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、平成22年6月10日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 第2条の規定は、工学資源学部が存続する間、当該学部に適用する。

附 則

この規程は、平成26年11月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 第2条の規定は、工学資源学研究科が存続する間、当該研究科に適用する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

2回開催（令和3年度実績）・参加率平均100%

0回開催（令和4年度実績）

c 委員会の審議事項等

上記の委員会規程第2条に定めるところによる。

② 実施状況

a 実施内容

FD活動

b 実施方法

- ①DS・AIの活用に関するFD
- ②データ駆動型サイエンスに関する勉強会
- ③ソフトウェアPythonの講習会

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ①令和4年4月21日（木） 参加者：約100名（zoom）
- ②令和4年9月29日（木） 参加者：約100名（zoom）
- ③令和5年3月14日（火）～16日（木） 参加者：延べ132名（zoom）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施結果を踏まえ、次年度以降の授業や学生サポートの改善に向けて取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

有（予定） 開講されている科目（講義）の最終週（予定）

b 教員や学生への公開状況、方法等

実施結果及び分析結果の総評は冊子体としてまとめ、各教員に配付予定。各科目ごとの結果については当該教員に個別に通知する予定。学生への公開については、その方法等も含め各学科・専攻の判断に委ねる予定。

① 実施体制

a 委員会の設置状況

・秋田県立大学教務・学生委員会規程

秋田県立大学教務・学生委員会規程	
	平成18年4月1日 規程第142号
	改正 平成20年4月1日
	改正 令和3年1月6日
	改正 令和4年3月9日
(設置)	
第1条 秋田県立大学に教務・学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。	
(審議事項)	
第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。	
(1) 教育課程及び授業科目の履修等に関する事。	
(2) 学生の入学、休学、転学、卒業等に関する事。	
(3) 学生の課外活動及び学生の団体に關する事。	
(4) 学生の保健管理に關する事。	
(5) 学生の奨学金に關する事。	
(6) 学生の表彰及び懲戒に關する事。	
(7) 学部及び大学院の教育並びに学生支援の検証と改善に關する事。	
(8) その他教務及び学生生活に關する事。	
(組織)	
第3条 委員会の委員は、次に掲げる者をもって組織する。	
(1) 教育本部長	
(2) 学部ごとの教員（但し、教授又は准教授に限る。以下同じ。）のうちから選出された者各1	
(3) 研究科ごとに教員のうちから選出された者各1名	
(4) 総合科学教育研究センターの教員のうちから選出された者1名	
(5) 木材高度加工研究所の教員のうちから選出された者1名	
2 前項第2号から第5号までに掲げる委員は、各学部長、各研究科長、総合科学教育研究センター長、木材高度加工研究所長の推薦に基づき教育本部長が指名する。	
(任期)	
第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。	
2 委員に欠員が生じた場合には、教育本部長は、前条の方法により補欠の委員を指名する。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。	
(委員長)	
第5条 委員会に委員長を置き、教育本部長をもって充てる。	
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。	
3 委員長に事故のあるときは、あらかじめ委員長の指名を受けた者がその職務を代理する。	
(議事)	
第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。	
2 委員会の議事は、出席した委員の過半数を持って決し、可否同数のときは、議長の決するところに	
(専門部会)	
第7条 委員会に、専門の事項を審議させるため必要があるときは、専門部会を置くことができる。	
2 専門部会の組織及び運営については、委員長が定める。	
(関係者の意見聴取)	
第8条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させ、説明を求め、又はその意見を聴くことがで	
(議事要旨)	
第9条 委員会の議事要旨は、事務局職員が作成し、教育本部長が保管する。	
(会議の非公開)	
第10条 委員会の会議は、公開しない。	
(委任)	
第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に關し必要な事項は、教育本部長が定める。	
附 則	
この規程は、平成18年4月1日から施行する。	
附 則	
この規程は、平成20年4月1日から施行する。	
附 則	
この規程は、令和3年1月6日から施行する。	
附 則（令和4年3月9日改正）	
この規程は、令和4年4月1日から施行する。	

秋田県立大学教務・学生委員会ファカルティ・デベロップメント専門部会設置要綱

平成18年 4月 1日
秋田県立大学教育本部長決定
改正 平成20年12月 1日
改正 令和 3年 7月 6日

(設置)

第1条 大学として教育内容改善の組織的取組みを実施する等のため、秋田県立大学教務・学生委員会にファカルティ・デベロップメント専門部会（以下「部会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 部会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 ファカルティ・デベロップメント（以下「FD」という。）の啓発及び周知に関する事。
- 二 FD事業の基本計画及び実施計画の策定並びに総括、改善に関する事。
- 三 FD事業の実施及び取りまとめに関する事。
- 四 その他FDに関する事。

(組織)

第3条 部会は、次に掲げる委員5名をもって組織し、うち2名は、第10条第3項各号に掲げる区分ごとに、教務・学生委員のうちから選出するものとする。

- 一 各学部の教授及び准教授（以下「専任教員」という。）のうちから選出された者 各1名
- 二 各研究科の専任教員のうちから選出された者 各1名
- 三 総合科学教育研究センターの専任教員のうちから選出された者
- 2 前項第1号及び第2号に掲げる委員は学部又は研究科の教授会で、同項第3号に掲げる委員は総合科学教育研究センターの協議会でそれぞれ選出する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
2 委員は、再任されることができる。

(部会長)

第5条 部会に部会長を置き、部会長は委員のうちから互選により選出する。

(会議の招集及び議長)

第6条 部会は、部会長が招集し、議長となる。

(定足数)

第7条 部会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

(議決)

第8条 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
2 事項が特に緊急の処理を必要とするものであるときは、前条及び前項の規定にかかわらず、部会長が適当と認める方法により議決することができる。

(関係者の意見聴取)

第9条 部会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させ、説明を求め、又はその意見を聴くことができる。
(分会等)

第10条 第2条第3号に掲げる事項その他必要な事項を審議するため、部会にシステム科学技術分会及び生物資源科学分会を置く。

2 分会は、次に掲げる分会委員をもって組織する。

- 一 システム科学技術分会
システム科学技術学部・システム科学技術研究科専任教員 各学科1名以上
総合科学教育研究センター専任教員 1名以上
- 二 生物資源科学分会
生物資源科学部、生物資源科学研究科専任教員 各学科1名以上
総合科学教育研究センター専任教員 1名以上
木材高度加工研究所専任教員 1名以上
アグリイノベーション教育研究センター専任教員 1名以上

3 前項に掲げる分会委員は、システム科学技術分会においては、学部長が総合科学教育研究センター長と合議の上、また、生物資源科学分会においては、学部長が総合科学教育研究センター長およびアグリイノベーション教育研究センター長と合議の上、指名する。

4 第4条の規定は、分会委員について準用する。

5 分会に分会長を置き、分会長はその分会に属する分会委員の互選により定める。

(準用)

第11条 第5条から第9条までの規定は、分会について準用する。この場合において、「部会」とあるのは「分会」と、「部会長」とあるのは「分会長」と、「委員」とあるのは「分会委員」とそれぞれ読み替えるものとする。

(議事要旨)

第12条 部会の議事要旨は、事務職員が作成し、議長の承認を受けた後、教育本部長が保管する。

(会議の非公開)

第13条 部会の会議は、公開しない。

(委任)

第14条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、教育本部長が定める。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 3年7月6日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・教務・学生委員会：概ね四半期に一度開催
 - ・FD専門部会：年度当初に定例開催、必要に応じて随時開催
 - ・FD専門部会システム科学技術分会：年度当初に定例開催、必要に応じて随時開催
- （いずれの委員会も委員（専任教員）の出席は100%）

c 委員会の審議事項等

- ・教務・学生委員会審議事項：「秋田県立大学教務・学生委員会規程」第2条規定による。
- ・FD専門部会・FD専門部会システム科学技術分会審議事項：「秋田県立大学教務・学生委員会ファカルティ・デベロップメント専門部会設置要綱第2条規定による。

② 実施状況

a 実施内容

- ・外部講師によるFD講演会
- ・シラバスの充実に向けた企画立案
- ・オフィスアワーの実施
- ・学生を対象とした授業アンケートの実施
- ・他教員の授業を参観する授業公開の実施
- ・教職員研修会の実施
- ・ティーチングポートフォリオの導入（学部での作成率92.1%）

b 実施方法

- ・FD専門部会（全学組織）でFD活動の基本方針を決定し、その基本方針の下、システム科学技術分会において学部・研究科内のFD事業実施計画を定め、実施している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・令和5年度の事業計画は概ね前年度と同様の事業実施を予定している。
- ・令和4年度の事業実績は以下のとおりである。

（令和4年度実績）

- ・FD講演会「授業におけるICT活用について」
開催日：令和4年8月29日（月） 講師：津田塾大学学芸学部 教授 稲葉 利江子 氏 参加者数：77名
- ・学部授業アンケート：前期と後期に分けて実施。前期実施率98.9%、後期実施率97.0%
- ・大学院授業アンケート：既存専攻 前後期課程の修了予定学生47名に実施。43名より回答あった。
- ・授業参観：7科目、延べ10名の参観者があった。
- ・教職員研修会
 - ①令和4年度新任教員研修会
開催日：令和4年4月4日（月）
内 容：教務・学生指導・FDについて
参加者数：5名
 - ②学部FD講演会
開催日：令和4年9月14日（水）
内 容：「高校教育段階におけるICT活用状況について」
講 師：秋田県立由利工業高等学校 教諭 鈴木 鉄美 氏、秋田県立仁賀保高等学校 教諭 小西 一幸 氏
参加者数：46名
 - ③学部FD勉強会
開催日：令和5年3月7日（火）
内 容：「授業におけるICT活用について」
参加者数：27名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・実施結果を踏まえ、各学科、専攻ごとに検討を行い次年度以降の授業改善に向けて取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・有：令和４年度は８月に１年生に実施。令和５年度は１年生（８月予定）と２年生（１２月予定）に対しても授業アンケート実施予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・共同サステナブル工学専攻運営協議会及び学内会議等で報告予定。授業アンケート集計結果については教員に個別に別途通知予定。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

<秋田大学>

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開設年度の状況は、順調に進んでいる。引き続き、設置の趣旨・目的達成に向けて取り組んでいきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和4年度以降

b 公表方法

共同サステナブル工学専攻のホームページから各種の情報を発信することとしている。

大学で実施する自己点検・評価に基づく評価の結果については、各事業年度及び目標期間内における業務実績に係る「評価書」を作成しホームページ上で公表している。

③ 認証評価を受ける計画

令和2年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価を受けた。現在は次回（令和8年度予定）の認証評価を受けるべく、学内で検討中である。

<秋田県立大学>

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・令和4年度の自己点検・評価委員会において当専攻に関しても審査を行い、複数の項目において基準を満たすと評価している。
- ・開設年度より順調に実績を重ね、令和5年度も継続して設置の趣旨・目的達成に向けて取り組んでいく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和4年度に関しては本学ホームページで公表している。
- ・令和5年度についても本学ホームページに公表予定である。（令和6年5月頃）

b 公表方法

- ・共同サステナブル工学専攻のホームページから各種の情報を発信することとしている。
- ・本学ホームページ上に自己点検・評価報告書を公開済み（令和4年度）、及び予定（令和5年度）

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に認証評価機関である独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による評価を受け、令和5年3月に同機関の定める大学評価基準を満たしているとの認定を受けた。同報告書は本学HPに公開している。

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

(4) 情報公表に関する事項

<秋田大学>

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☒ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

<秋田県立大学>

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☒ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。